

令和7年度（9. 3）学校関係者評価

中津市立深水小学校

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%
D	…達成率60%未満

1 学校の教育目標

多様性を尊重し、ともに学びあい、自主・自立の力を身につけた児童の育成

2 育成を目指す資質・能力 【 コミュニケーション力 】

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

生きて働く知識・技能の習得

思考力・判断力の育成

学習に向かう意欲の涵養

働き方改革の推進

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	○成果と●課題、及び◇次期に向けての取組
基礎基本の定着（もっと学びたい）	①国・算の単元末テスト（知識・技能）において、児童自身が設定した目標を90%以上が達成できる。	学校	◇児童が「学ぶことが楽しい」と実感できる授業づくり ◇個別最適な学びの保障	○大分スタンダードにもとづいた授業を行う。 ○授業で習得したキーワードを使った「まとめ」「振り返り」を1日2回以上行う。振り返りでは、学習の過程を振り返らせるようにする。 ○毎日、個に応じた学習時間を保証する。（AIドリルや個別の弱点に特化したプリントなどを朝学習や授業の終末に使用）	B	○楽しく学校で学ぶことができています。 ○普段の生活を見ていると、自主性が育ち、意見を言う力がついていると感じる。 ●社会が変わっても大切にならなければならないことがある。 ●読み書きの指導は不可欠。 ◇本離れ、活字離れをしないようにしてほしい。 ◇振り返りと反復練習に取り組むことが望ましい。
	②「授業がわかる」と回答する児童が90%以上になる。	家庭	◇基本的な生活習慣の確立	○保護者は毎日「早寝・早起き・朝ごはん」を続ける。	A	○生活の基本が大切なので、取り組みを継続することが望ましい。
		地域	◇学習への積極的支援	○地域は、学習内容に応じたゲストティーチャーとして授業支援を行う。	A	○農業体験に力を入れてくれている地域の方に感謝している。
学びを深める力の育成（もっと挑戦したい）	③「友だちと一緒に学ぶのが楽しい」と回答する児童が80%以上になる。 ④「失敗しても、あきらめずに挑戦している」と回答する児童が90%以上になる。 ⑤学習や活動の振り返りをみんなの前で発表することができる児童が80%以上になる。	学校	◇協働的な学びの時間の充実	○「発言・発表マニュアル」を活用した発言・発表の場の設定 ○国語、算数は、多様な活用問題に取り組ませる。（単元毎に） ○「背伸び読書」及び「すきま読書」に取り組ませる。（週2回以上） ○新聞ワークシートを週に1回以上使用する。	A	○「背伸び読書」「すきま読書」などの取り組みが有効である。 ●読書の時間を増やすことができるといい。 ◇これまでの取り組みを継続しながら読み取る力の育成に努める。
		家庭		○長期の休み（連休を含む）に、親子読書活動に取り組む。	A	●読書や家庭学習など家庭の協力が必要。
		地域	◇背伸び活動の推進	○地域は、学校行事に積極的に参加・支援を行う。	A	○読み聞かせや農業体験などたくさん支援がある。最後に頑張った児童をほめる機会を設けてほしい。 ◇地域の力を最大限に活用することを継続。
協働的に課題を解決する力の育成（もっと貢献したい）	⑥「友達と協力しながら、すすんで学んだり運動したりしている」と回答する児童が90%以上になる。 ⑦「地域や家族のために役に立っている」と回答する児童が80%以上になる。	学校	◇児童会活動を通じた自主的・創造的な活動の推進 ◇豊かな体験活動の充実	○学校生活上の課題を見つけ、全校学活や児童総会で、改善を図るための話し合いをさせる。	A	○以前に比べ、成長している姿がある。自主性が出て、周りと協力しながら取り組める。 ●自己理解力や課題発見力、判断力をつける必要がある。 ◇たくさんの場を経験できる場を設定する。
		家庭	◇家族の一員としての役割分担の明確化	○子どもの思いを尊重した話し合いをする。家族の一員としての「家の仕事」を決め、すすんで実行しているときは、その都度、ほめる。	A	◇これまで以上に声をかけ認めることを意識して増やす。
		地域	◇深水子ども応援団活動の継続	○学期に2回以上、深水子ども応援団活動（道徳、総合的な学習、環境整備等）を行い、対話をしながら児童の活動意欲を高める。	A	○様々な場面で地域の方々につながっている。 ◇今後も継続して地域に貢献できる人間づくりに努める
校務分掌の効率化	○15：30以降を「個別業務タイム」とし、週4時間以上を目安に実施。	学校	◇会議時間内の効率的運営	○各種資料の電子データベース化による事前共有 ○各種の活動や行事等の来年度用の直後プランの作成 ○会議は水曜日14：45～、上限を60分以内に設定	B	○以前に比べると超勤が減少した。 ●18時以降も職員が勤務していることがある。 ◇更なる業務改善、行事等の見直しが必要。
	○「ワークライフバランスが取れている。」と回答する教職員が90%以上になる。 ○原則18：00までに全職員が退庁する。	家庭	◇会員減による活動の効率化	○保護者は行事を精選し連絡メールで日常的に連絡・調整を行う。	A	○日常的に家庭との連携が可能である。 ◇メールやホームページ等、最大限に活用すべきだと考える。
		地域	◇学校運営協議会の充実 ◇PTA準会員としての学校支援	○各種会議では、建設的な意見等で意形成を図る。 ○毎月8日の三光あいさつ運動に参加したり登下校の見守りをしたりする。 ○学校だよりで情報を共有し積極的に学校の活動に参加する。	A	○あいさつ運動や運営協議会等で連携がとれる体制あり。 ●行事の連絡が地域へうまく伝わらないことがあった。 ◇地域から積極的に声をかける習慣が大切。 ◇連絡メールシステム「すぐる」の活用。